

# 知恵の樹

No. 204 2016.7.26

町田の図書館活動を  
すすめる会

代表：手嶋 孝典

[tejitaka@f8.dion.ne.jp](mailto:tejitaka@f8.dion.ne.jp)

## 「カリフ」は何処に？

caliph = khalifa

khalifa rasūl Allāh

駒田 和幸

最近、町田の中央図書館に出掛けてもがっかりすることが多く、自然と足が遠のきつつある。

その訳は、まず新刊本の棚である。以前は棚いっぱい本が並んでおり、じっくり背表紙をながめつつ、おや、こんな本が出ていたのかと思わぬ発見があったものだ。そして手にとり、ページをめくる時間は、知的刺激に満ちたとても充実したものであった。

ところが、いまは棚に並ぶ新刊本は少なく、担当の職員の方も並べ方、見せ方に苦勞されているのではと、憶測してしまったりしたほどである。

次に新聞や雑誌のコーナーである。4月以降入らなくなった新聞や雑誌がいくつかある。市内の図書館や文学館のどれかに入っているものもあるが、どこにも入らなくなったものもある。一体、誰がどのような基準で取り止めるものを決めたのだろうか。そんな疑問がつつい頭をもたげてきてしまう。

ということで、以前は週に複数回、行っていたこともあったのだが、最近はせいぜい月に数回になってしまった。

こんな風に図書館の存在が筆者の中でとても小さくなりつつあるなかで、本誌に目を通すと、図書購入費がなんと3割もカットになったと記されていた。ずいぶん大鉈を振るわれたものである。これでは新刊本や新聞雑誌の購入が減らされるのも当然であろう。

市の予算についてきちんとチェックしてこなかったのは、迂闊といわれれば確かにその通

りなのだが、市議会等でどのような議論があったのか、遅ればせながらも関係資料で確認しておきたい。

そもそも図書購入費削減問題は市民にとっても深刻な問題だと思う。というのは、削減がこのまま継続していくと、やがて図書館はじり貧状態に陥ってしまうだろう。このことは、図書館が本来果たす機能を考えると、市民ひとりひとりの栄養不良をもたらし、延いては市民文化の衰退にもつながりかねないのではないか。市民自らが新しい社会を創造していく上でも、思考のもとになる資料の不足・欠如は大きな障害となるであろう。

かつて14世紀イラクのシーア派の指導者であったイブン・アッティクターの書いた『アルファフリーーイスラームの君主論と諸王朝史』（池田修・岡本久美子訳、平凡社東洋文庫）第1巻に次のような逸話が引かれている。

ある日のこと、イスラームの最高権力者カリフは、話し相手をさせようと一人の学者のもとに召使を出した。すると、その学者はいま賢者らと話し合っているところだから、それが終わり次第参上すると回答した。カリフは、その賢者とは何者かと尋ねると、召使は、学者はただ書物を一心不乱に読み耽っているだけだと答えた。怒ったカリフの命令で無理やり引き立てられた学者は、次のような詩を朗読した。

われらのもとには話しても話しても

倦むことのない友がおります

彼らは陰に陽に誠実で信用できる者たちです

皆、過去の知識をわれらに教えてください  
意見、教養、名誉、威厳のすべてを  
…（後略）…

さて、これを聞いてカリフはどうしたか？なんと学者の友が書物であることを知り、遅参の無礼を咎めようとはしなかったという。

21世紀の町田には、「カリフ」のように書物＝知の価値を弁えた人が、特に市行政に携わる人びとのなかにはいないのだろうか。幸い、本

誌で資料費増額のキャンペーンを展開するという。その訴えが市内各地に飡していくよう、筆者も声を出していきたい。（本町田在住）  
※カリフとは、預言者ムハンマド（マホメット）の後継者・代理者の意で、イスラム国家最高権威者の称。スンニー派では、イスラム共同体（ウンマ）の合法的な政治的指導者をさしたが、13世紀半ばに廃絶。ハリファ。（編集部注、解説が一番分かりやすかった『デジタル大辞泉』『広辞苑』から引用）

## 開館 10 周年を迎える町田市民文学館

### —「市民参加型事業評価」結果に思う—

守谷 信二

#### 文学館「事業評価」——

2006年10月にオープンした町田市民文学館は、今秋開館10周年を迎える。この間、年4回の文学展やさまざまな講座・講演会、ワークショップ等が年間を通して行われてきた。昨年8月には、来館者50万人を達成することもできた。

ところが、2015年5月に開催された「町田市民参加型事業評価」では、文学館を含む12の対象事業すべてが「要改善」と判定されたものの、文学館については、「限りなく『廃止』に近い『要改善』」という厳しい意見が付された。

「市民参加型事業評価」とは、市の特定事業に対して、主として費用対効果の観点から、市民・有識者からなる5名の「評価人」が、担当職員への1時間ほどの質疑を経て、「廃止」「要改善」「現状維持」のいずれかの評価を行うというものである。市の経営改革室が所管課となっており、これまで「事業仕分け」という名称で、2008年度、11年度、13年度とすでに3回実施されている。

「事業評価」の結論がそのまま市の政策決定に直結するわけではないが、事業担当課は「評価人」の指摘事項を受けて改善プランを策定し、逐次その進捗状況を経営改革室に報告することになる。

#### 開館時に目指した文学館像——

文学館に対する「評価人」の指摘内容に入る前に、館の開設準備から最初期の運営にも関わった

者として、開館時の事業意図のようなものに触れておきたい。

文学館構想が持ち上がったきっかけは、1996年に町田市在住の作家・遠藤周作氏が亡くなられ、遺品の一部が市に寄贈されたことによる。遠藤氏以外にも、町田市には過去から現在に至るまで、実に多くの詩人や小説家、俳人などが来住し、その作品の中でしばしば町田が採り上げられている。こうした隠れた文化史にいち早く目を留め、まちづくりに活かそうと考えたのは、当時の市長、寺田和雄氏であった。すでに秘書課長時代の1975年に、「町田と文学と町づくり」という文章を大手書店のPR紙に寄稿したりしているのである。

しかし、バブル崩壊後の長引く不況の中にあつて、新たに文学館を建設するという構想には、議会などから強い反発もあった。私自身担当者として、他の文学館の現状をみても、名の通った一部の作家の文学展以外は来館者が限られ、どの館も集客に苦心していることはすぐにわかった。

そこで町田では、単にゆかりの作家の資料を収集・保存し、展示するだけの文学館ではなく、むしろ一般市民の文学活動を積極的に応援し、その活動が文学館自体を支え育てていくような、市民活動の拠点としての文学館を目指すことにした。

著名な作家の著作も一般市民の句集や歌集も同列に扱い、むしろ知られることの少ない市民の著



作を積極的に紹介する。図書館ネットワークを活用して、市内どの図書館からも自由に文学館資料の貸出・返却ができるようにする。文学活動には会議室の優先予約を可能にする。市民が主体的に「町田の文学」の研究に取り組む市民研究員制度を立ち上げる。幼い頃から言葉や文字に親しんでもらうための、乳幼児と保護者の会を定期的開催する。「ことばらんど」という愛称も、「文学」を言葉のレベルまで押し広げることで、より市民生活に身近な幅広い活動を目指そうとした結果でもあった。

### 「評価人」の指摘事項——

昨年5月24日、午後4時過ぎから市役所で行われた文学館の「事業評価」に、私は一市民として参加し、「評価人」と事業担当者との遣り取りの場に直接立ち会うことができた。その際の「評価人」の指摘事項について、以下私の個人的な感想を記しておきたい。

文学館に対する指摘は、次の3点に集約される。  
①図書館にゆかりの作家コーナーなどがあれば、特に文学館がある必要はないのではないか。  
②設置するにしても、市の直営ではなく民間活力の利用、指定管理者制度の導入はできないのか。  
③そもそも市民の中に文学館に対するニーズがどれほどあるのか、というものである。

①については、「評価人」の方々が果たして文学館や図書館の活動実態を、どれだけリアルに把握されておられるのか、率直に疑問に思った。

当日、事業担当者も説明していたように、文学館固有の事業、例えば一定水準の文学展の開催や、貴重資料の専門的な調査・研究などは、図書館業務の一部として行えるようなものではない。

また図書館は、43万市民のあらゆる関心領域に対応して、資料・情報の提供を行っているのであり、予算や人員、物理的空間に至るまで、すでに限界を超える状態にある。むしろゆかりの作家や専門的な文学資料の収集・保存を文学館が担うことで、図書館業務の負担軽減に繋がっている。

②については、生涯学習施設等の運営に際して、いまや全国の自治体で当たり前のように議論されている。指定管理者制度については、主に事業の継続性とそこで働く人間の労働環境面で、制度そ

のものに致命的な欠陥があることが指摘されて久しい。それでもなお導入せよという議論が止まないのは、当面安上がりなら、長い時間をかけて積み上げて行かなければならない内実など、どうでもよいというのが本音なのではないか。“貧すれば鈍する”とはよく言ったものである。

③は、そもそも文学館にどれほどの市民ニーズがあるのか、との問いである。それは、いまこの日本に「文学」を必要とする人間がどれほどいるのか、というのに等しいだろう。最近流行の言い回しを借りて、「それほど多くはありませんよ。で、それが何か？」などと言ってみたくもなる。

行政は、必ずしも顕在的な市民ニーズだけを政策化するわけではない。将来のまちづくりに活かそうと思えば、市民にアピールして新たなニーズを掘り起こすことも、行政の大きな役割のはずである。そういう意味では、百数十年前の自由民権運動の歴史や版画に特化した作品コレクション、あるいは縄文を中心とする膨大な考古資料なども、この町の歴史が育んできた掛け替えのない遺産なのではないだろうか。

旅先などで「町田市」というと、「自由民権資料館があるところですね」、「国際版画美術館に行ったことがあります」「縄文遺跡の宝庫ですね」などと言われることがよくある。これらの施設や資源が、いま流行のシティセールスとかいうものに案外寄与していることを、知らないのはむしろ町田市民自身なのではないか。

### 職員・市民として——

今回の文学館に対する「事業評価」の結果は、その開設に関わったものにとって、決して愉快なものではなかった。しかし、「評価人」の方々が指摘された事柄は、「文学」などに縁もゆかりもない多くの一般市民が抱く感想や意見でもあろう。

こうした環境の中で、文学館の職員は果たして何を胸に刻んで仕事をしていくべきなのか。答えは、職員ひとりひとりが真摯に自問して導き出すほかはない。

市民としても考えなければならない。今後さらに落ち込む税収に、反比例して増大する社会保障費。国の政策に言いたいことは山ほどあるが、先の選挙結果を見ても、これから自治体財政がます

ます危機的な状況に向かうのは、避けられない事実だろう。そのときいまの行政水準をどう確保するのか、あるいは何を切り捨てて何を残すのか。これは行政に携わる者だけの課題ではなく、むしろ

市民ひとりひとりが考え、声を挙げていかなければならない問題である。そのための材料は、図書館や市のHPなどからもある程度手に入れることができるだろうと思う。(会員)

## 第三次町田市子ども読書活動推進計画

推進会議(第11回)が開かれました

推進委員 増山 正子

2015年2月、第三次推進計画が策定され、去る2月16日には推進会議第10回が行われ、2015年度前期の取り組み状況が各関連部署より報告、それに対する質疑応答がなされました。

推進会議のあり方についての問題点等は、第10回会議の報告と共に「知恵の樹」199号p7(2016.2.23)に載せましたので、ご参照くださいと思います。

先日7月1日(金)は、新任委員2名に委嘱状が手渡され、第11回会議「2015年度1年間の各担当部署による取り組みの結果報告、および質疑応答」が開催されましたので、ご報告いたします。

会議は、図書館がまとめて資料にしてくださった、15年度の取り組み一覧表を基に、基本目標Ⅰ「子どもが本と出会うきっかけづくり」(15項目)、Ⅱ「いつでも身近なところに本がある環境づくり」(10項目)、Ⅲ「子どもの読書に関わる人の配置と育成」(7項目)について、項目順に各担当者より報告を受け、質疑応答が行われました。

この35項目の子ども読書推進計画は、赤ちゃんから中学生まで、それぞれの部署が担当して、計画に盛り込まれた内容を確認する形ですすめられ、図書館のことだけをやっている者にはわからない、保育関係の子育て推進課や保健予防課での動き、学校図書館に関わる学校教育指導課、学童保育クラブ・子どもセンター関係の児童青少年課における取り組みなど、どの部署も、推進計画に即して真摯に対応してくださっている様子が窺えました。が、計画そのものが、第一次から継続されているものが多く、既に定

着している事業も毎次推進計画として出されていることから、時代の流れに則した新規計画が余り盛り込まれておらず、計画そのものがマンネリ化しているように感じます。

読書という目に見えない子どもの心に入り込む取り組みだけに、ソフト面である人の問題が重要ですが、計画の中では希薄な存在で、進捗状況を主に数値だけで評価している趣があります。

また、「市政にとって図書館事業が重要である」という認識を持っていないのではと思えるほど、図書館をあてにした施策がとられていないことがこの子ども読書推進計画にも表れており、図書館を核とした行政間の連携が希薄で、計画推進もバラバラな感を拭えません。

次回第12回会議は、来年2月ごろ開催予定で、16年度前半の取り組み状況についての報告についての話し合いがなされる予定ですが、第三次計画は、第一次・第二次の年次ごとの計画ではなく、5カ年を通年としての漠然とした計画だけに、課題をどうクリアしていくかは余程の計画性が必要です。

いろいろ、マイナス面ばかり並べましたが、これらは全て、計画策定時の問題でもあります。

やりっ放しではなく、市民が検証していくこの会議は、とても意義あるものですし、徐々にですが、関係機関との連携も努力が見られます。第四次子ども読書活動推進計画策定時には、この推進会議委員会での話し合いが活かされるよう、今後も有意義な話し合いをしていきたいものと願っています。(会員)

# 「夢が夢なら」

町田市立図書館協議会委員

齋藤美智子

保育園を退職して数年経つが、園長の頃、子ども達への教育支援について、また、先生たちの処遇について、地域連携について等々たくさんの夢を持って日々をすごしていた。しかし、日常の保育の中では、滑った転んだ、できる、できない、予算がある、ない・・・であつという間に1年、2年とすぎてしまう。そんな不消化な心をどうにかしないと「やってられない！」となる。そこで思いついたのが、園だよりの中に「夢が夢なら」というコラムを入れ込んで、前後左右の事を考えずにフリーな心<愛>を書こうということだった。このコラムはだいぶ続いたように思う。

「大きな木の上にツリーハウスがあつたら、子ども達はどんな遊びを展開するだろうか！」  
「園庭で大きな大きなバームクーヘン子ども達と作るのには、何をどうすればよいのだろう！」  
「子ども達と、海へ行って！」  
「川へ行って！」  
「富士山に登って！」  
等々計画書等何も考えなくとも、書きっぱなしでよいのだから、本当に「夢が夢なら」である。

もう13年以上も前、この「夢が夢なら」のコラムに、自然に囲まれているここの保育園に“<動物と植物>の絵本や本が沢山ある日本一小さな図書館を作ろう！レンガ風で白い窓で、電球は白熱灯で。”そんな事を書いたら、ある日赤い羽根募金の寄付先申請書を見つけた。夢が夢でなくなるかもと、必死で計画書を作成し（書ききれないほど難儀でした）やっと許可がおりていただいた助成金で、ウサギ小屋を地域の大工さんに作り替えていただき「しぜんのくに動植物図書館」に変身。看板は、手作りの簡単なものを掲げ、本も少しずつ充実させていったのだが、気が付くと、そこは、登校拒否の子どもさんや、放課後お母さんが遅くなる小学生が自然に集まり、<アフタースクール>の場ともなっていた。

夢は時には現実となり、思わぬ方向に進みだ

すものだと、その時実感した。

昨年、図書館協議会委員となり、又町田の図書館活動をすすめる会の定例会に参加するようになって、今まで図書館が自分にとって遠い場所だったように感じていたことを反省している。

仕事をしているとなかなか図書館に足を運べなかった。本を借りても読破できず、結局返却してしまい、もやもやした気持ちがのこってしまった。本当はこれではいけない。

図書館はただ本を借りるだけのところではないのだから。

改めて、『図書館をめざすもの 新版』（竹内さとる編訳、日本図書館協会、2014）を読んでもみると「アメリカ社会に役立つ図書館の十二か条」が記載されている。

- 1 図書館は民主主義を維持します
- 2 図書館は社会の壁を打ち破ります
- 3 図書館は社会的不公平を改めるための地ならしをします
- 4 図書館は一人ひとりを大切にします
- 5 図書館は創造性を育てます
- 6 図書館は若い心を開きます
- 7 図書館は大きな見返りを提供します
- 8 図書館はコミュニティをつくります
- 9 図書館は家庭を支えます
- 10 図書館は情報機器を使う能力と考え方を育てます
- 11 図書館は心の安らぎの場を提供します
- 12 図書館は過去を保存します

この十二か条を参考に、日本では「私たちの望む図書館」の姿をまとめようという動きが各地で起こったと記されている。

町田市住民は「私達はこういう図書館を身近に欲しい。図書館とは本来こういうものなのだ」という思いを、どれだけの人が、声に出しているのだろうか。

子どもも学生も大人も、図書館を身近なものとして、自分たちが守り造り上げていく、とい

う意識を絶えず声に出して発言しなければ・・・  
何も進まない。何も生まれない。

「夢が夢なら」現在人口の25%だという町田市の図書館利用カード所持者が50%になったらすごい事。何かでインタビューされた市民が「町田市で誇れるものの一つは、優しい図書館があることです！！」と異口同音に答えられたら・・・そう考えるとワクワクする。

「夢が夢なら」を皆さんも心を遊ばせながら考えてみてはどうでしょう？

もしかしたら現実になる夢が生まれるかもしれません！  
(会員)

## 柿の木文庫の講演会のお知らせ

9月16日(金)10時30分から相京香代子さんによる「わらべうたでゆったり子育て」のひとときを親子で楽しめます。

**会場：柿の木文庫（鶴川）** お子様連れの方だけでなく、小さい子向けにはおはなしを届ける活動をされている方もどうぞ。講師は、わらべ歌講座や保育士の研修を行う一方、あそびの広場「ぼこぺんの会」を主宰。

問い合わせ先：中本 042-736-9220

## 第16期図書館協議会 第9回定例会報告

2016年6月23日(木) 午後3:00～5:00 中央図書館・中集会室 傍聴者2名

### 【報告事項】<<館長報告>>

**1. 第2回町田市議会定例会(一般質問6月7日(火))**  
渡場悟視議員(共産党)「市民のニーズにこたえる市立図書館を求めて」

①市立図書館の利用状況について質問 ⇒ 2012年と比較し利用若干減少と回答。

②図書購入費を増額し、市民ニーズに応えるべきではないか ⇒ 忠生図書館新設、セルフ貸し出し機導入、子どもセンター「わお」での予約受渡しサービス開始等、図書館サービスの拡充向上を図り市民ニーズに応えてきた。しかし資料費減少に伴い、選定購入では利用が見込める資料を厳選したいと回答。

#### (以下、協議会委員と館長の質疑)

Q:利用減少は資料費削減と関係ないのか ⇒ 因果関係は分析できないが一般論としてあるかと思う。市の財政状況を考えれば、直ちに資料費を回復させるという約束はできない。

Q:忠生図書館開館やシステム更改により資料費が減ったのか ⇒ 直接は繋がらないが、現在の財政状況では今後も厳しい状況にあると考えている。

③小山地域に図書館を求める要望があるかどうか ⇒ 予約受渡所2カ所と移動図書館9ポイント、他市との利用協定を結び対応、新図書館の建設予定はないと回答。

#### (以下、協議会委員と館長の質疑)

Q:小山地域に図書館をという要望は議員が地元の声

を受けてのことか ⇒ 渡場議員が直接受けていたかは不明、地元自治会の要望として図書館は承知。

Q:中間報告に地域館整備が記載されているが、忠生は含まれているのか ⇒ この時点では入っていない。人口5万人に1館という数値目標があり、忠生ができた時点でおおむね達成。

**意見:町田市の市域が南北に長いという事情を考慮すれば、北部と南部における地域館設置要望は当然であり、財政状況好転時には新設を望む。**

### 2. 教育委員会定例会

**\*町田子ども読書活動推計画推進会議委員の委嘱(以下、協議会委員と館長の質疑)**

Q:小学校PTA代表が選出なしとあるが ⇒ 小学校は連絡協議会に参加していない学校もあり、役職を賄いきれない状況もあるようだ。小学校保護者の声は是非聴きたい。他の方法も検討が必要。

**意見:小学校は6年間、広く公募も検討してはどうか。**

#### \*報告事項

①町田市立図書館資料受渡し事業実施要綱の一部改正

1 成瀬コミュニティセンターを加える。

2 リクエストサービスが市内在住する者及び利用団体のみになった。

Q:リクエストサービスの在勤在学者へのサービスがなくなるが、財政状態が良くなれば復活するか ⇒ 現在考えていない。

意見:公共図書館としては元に戻すことが望ましい。

Q:リクエストへの対応には購入と借用(図書館間相互貸借)があるが、上記の件は借用で対応できないか  
⇒その場で借用か購入の判断は難しい。混乱を避けるために一律やめた。

Q:借用に対する人的補償ができないからか ⇒ そう  
いう意味ではなく借用が減ることはないということ。

Q:借用が増えるのは資料費が削減されているからではないか ⇒ 資料費はもはや複本を減らすというレベルではなく、町田市で当然用意できていたものができなくなっているの、借用に頼らざるを得ない。

③文学館「妖怪がいた！」開催(7/16-9/19)

Q:企画参加者に利用登録の勧誘はないのか  
⇒ この企画では勧誘について聞いていない。

### 【協議事項、他報告事項】

#### \*委員報告事項\*

1. 成瀬かえで文庫再スタート:6/17に図書館の応援を得て成瀬コミュニティセンターに引越し。7月より毎週水・土曜日午後の他、第4月曜日午前に小さい子とお母さんのためのおはなし会を増加。かえで文庫の貸出は文庫開催日のみ。他日は閲覧のみ可。
2. 成瀬コミュニティセンター予約資料受渡し:市職員担当(土日無)。運搬は委託業者が1日1回午前中。

### 当会のホームページを開設しました!

今まで会員以外の方に会の活動を知っていた  
たく手段が会報だけでしたが、より多くの方々にウェブを通じて活動を知っていただき、活動に参加していただく機会を増やしたいと願って、当会は5月にホームページを開設しました。  
ホームページのURLは

<http://machida-library.jimdo.com/> ですが、  
検索する時は「町田の図書館活動をすすめる会」と入力しても大丈夫です。現在、ホームページに載せている内容は、私たちの活動の理念、活動内容、会の歩み、会報のバックナンバーなどです。

これからは、指定管理者制度の問題、学校図書館の問題など、私たちが直面しているいろいろな問題も取り上げていけたらと思いますので、多くの皆様のご協力をお願いいたします。  
スタッフ:鈴木(真)(リーダー)・山口・神尾

3. 障害者サービス:図書館から障がい者サービスボランティアはお知らせと報告が文書にて送付あり。ボランティアの知らない情報もあり、積極的な情報提供を評価。今後ともお願いしたい。

4. 学校図書館図書指導員謝礼に関して:第2回の教育委員会学校教育指導課との面談の報告

#### \*委員質問事項\*

1. 文庫との連携に関する中間報告:Q:10 文庫と連携とあるが連絡を取っただけ。連携とはいえない ⇒ 内容を確認して表現を考える。Q:HPに文庫マップ掲示や文庫HPとのリンクはいつ頃か ⇒ 更新は年4回。次回に含まれるか確認。Q:多摩地域の文庫調査情報の提供はできないか ⇒ 該当各市に公開許可を確認する。

2. 幼稚園・保育園の団体登録:Q:幼稚園保育園が大幅に増加。団体登録勧誘は行っているか ⇒ 個別にはしていない。調査依頼時に広報したが、現在はしていない。

3. 第6回まちだとしょかん子どもまつり :Q:タイトルから「子ども」をとることについては課題となったが、今回説明会では無理と説明された。⇒ タイトルは第1回実行委員会で決めるべきで「仮称」とすべきだった。「子ども」とつけるか否かにはそれぞれに良い面悪い面はあると思う。

4. Q:図書館評価や利用者懇談会は市民にどれほど知られているのか。⇒ 広報を活用。浸透しているとはいえない。方法について意見をお願いしたい。

★次回第16期図書館協議会第10回定例会は  
2016年7月28日(木)15:00～ 町田市立中央図書館・中集会室にて 傍聴自由です。

### 投稿歓迎!

本誌への投稿をお待ちしております。特に、図書館資料費の削減についての忌憚のないご意見をお寄せください。

もちろん、資料費の削減問題だけでなく、図書館に関することなら、何でも歓迎いたしますので、奮ってご応募ください。ご応募は会代表のメールアドレスへお願いいたします。





- ・ 16:30～No203 印刷他(伊藤・丸岡・手嶋)
- ・ 18:00～20:40 中央図書館・中集会室

出席：石井、神尾、久保、齋藤、清水、菅原、鈴木(真)、手嶋、増山、丸岡、守谷、山口、渡辺

### 議題

#### 1. 会報について

No.204：文学館職員 開館10周年を迎えて  
記事候補 保育園での子どもたちへの読書推進活動について(齋藤)、図書館協議会報告(清水)、ホームページの開設について(鈴木)、寺田前市長の蔵書の整理について(守谷)

#### 2. すずめる会のリーフレットの改訂について

配布用と会員用のリーフレット2種類が本当に必要か? 増山、高橋が担当⇒継続

#### 3. 世話人の追加について

記録 嘱託労の次期担当も交えて検討する。  
用紙の手配 渡辺  
会計監査・会議室の予約 吉岡課長に確認。

#### 4. 今年度の活動計画について

夕涼み会：8月30日(火) 午後6時半～  
秋の講演会：下記「お知らせ」参照。  
春の講演会：広瀬恒子さんに依頼する予定。  
図書館見学会：今のところ候補は、紫波町立図書館(岩手)、南相馬市立図書館(福島)など

### 講演会のお知らせ

テーマ：指定管理者制度導入に向けた総務省の動向について(仮題)

日時：9月4日(日) 午後2時半～4時半

場所：町田市立中央図書館ホール(6階)

講師：松岡要氏(元日本図書館協会事務局長)

主催：町田の図書館活動をすすめる会

後援：まちだ自治研究センター(申請中)

会費：無料

申し込み：不要(直接会場へ)

#### 5. 資料費増額の取り組みについて

署名活動など具体的なアイデア募集⇒継続  
施設の共有部分の修繕、MARC関連の一時的な出費分の予算は来年度戻る保証はない。

#### 6. 図書指導員謝礼の金額変更について

本誌203号p.4参照。6月27日(月)堺中で研修会あり(研修より説明がメインに)。

8月には中央図書館でも研修会を行う予定。

#### 7. 「次期5ヵ年計画行政経営改革プランの概要」について

#### 8. その他 ホームページについて

会報は2015年度4月分～公開中。更新は担当が行い、新たに項目を追加する場合は例会で報告を行う。図友連など関係団体との相互リンクも貼っていく。何か意見があれば担当まで。

### 報告

#### 1. 「第6回まちだとしょかん子どもまつり」説明会について

8月23日(火) 第1回実行委員会

#### 2. 図書館協議会について

詳細は来月の会報で報告予定。

今後の日程は7月28日(木)、8月25日(木)

#### 3. 団体及び個人からの報告

##### 野津田・雑木林の会

6月29日(水) 野津田公園の魅力発信するプロジェクト反省会

##### 嘱託労

6月9日(木) 第9回定期大会を開催した。

来月から「すすめる会」には新しい執行委員が参加する。

##### かえで文庫

成瀬コミュニティセンターにてリニューアル  
予算の関係で自動貸出機はなし、空きスペースはそのままあり。

##### 柿の木文庫

わらべうた講座の予定あり、詳細は会報で。  
市職労 木曾山崎図書館に保育園からのすすめで登録に来た利用者あり

#### 4. その他

おすすめ本 菅野完『日本会議の研究』(扶桑社新書)

### ≪編集後記≫

東京都の図書館政策が変質したのは、石原知事の時代だった。図書館を大切に考えている人が知事になったら、どんなに素晴らしいことか。東京の図書館大躍進は、美濃部知事の時代だった(T2)